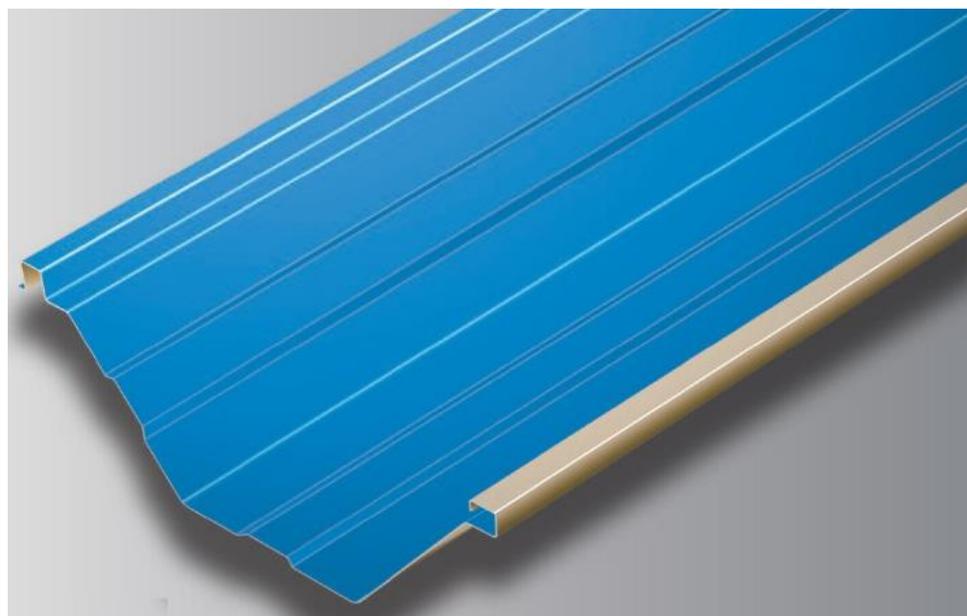


施工の手引 (二重葺き)

- MS角馳折板Ⅱ型
- MS角馳折板550
- MS角馳折板600
- MS丸馳折板Ⅱ型
- MS角馳折板300
- MS丸馳折板650
(MS丸馳折板Ⅲ型)



施工の手引き ご使用にあたって

- この施工の手引きには、以下①～⑥に記載の弊社製品の一般的な地域で使用することを対象とした標準的な施工内容について説明しております。
多雪地域および強風地域、または特殊な条件で施工される場合は、必ず弊社までご相談ください。

<対象製品>

- ①MS角馳折板Ⅱ型
 - ②MS丸馳折板Ⅱ型
 - ③MS角馳折板550
 - ④MS角馳折板300
 - ⑤MS角馳折板600
 - ⑥MS丸馳折板650（MS丸馳折板Ⅲ型）
- 現場作業においては、労働安全衛生法をはじめとする関係法令・規則通りの作業およびこの施工の手引きをご理解の上、実際の現場に即した安全で確実な施工を行って頂きますようお願い致します。
 - 施工の手引き内で示す寸法は標準値であり、現場での実施工において地域性等を考慮する場合、納まり状況等により前後することがあります。
 - 施工の手引きを参考いただき、元請け様や工事店様のご判断、責任のもと、施工を行って頂きますようお願い致します。
弊社は免責とさせていただきます。

安全上のご注意（必ずお守りください）



警告

この表示の欄は「取り扱いを誤ると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

- 高所作業を伴いますので、転落による事故防止のため、高所作業の正しい服装と保護具を着用し、足場の点検を行ってください。
- 2メートル以上の高所作業は、安全ベルト、命綱の携帯が法律で規定されています。事故の可能性がありますので、関係法規に従ってください。
- 金属製屋根材ですので、怪我を防止するために、必ず作業手袋を着用してください。
- 雨や露で屋根面が濡れている場合は、施工しないでください。滑り落ちる恐れがあります。
- 金属屋根や金属部材は、電線等に触れないように取り扱いってください。感電の恐れがあります。
- 固定していない屋根材・役物の上には絶対に乗らないでください。
- 屋根材は風で吹き飛ばされないように設置してください。また風の吹いているときに持ち運ぶ場合、あおられないよう、足元を固めてください。
- 葺き上げた屋根面には物を置かないでください。



注意

この表示の欄は「取り扱いを誤ると、人が傷害を負う危険または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

- 製品の屋外保管の場合は防水シートで覆い、雨水に濡れないようにしてください。
- 防水のため施工の際は、葺き板の働き幅による正確な割付を行ってください。
- 屋根上での歩行は、屋根材に過度の負荷が加わらないように注意してください。
- 断熱材貼り製品の場合、裏面や切断面に溶接の炎、火花などがあたるると引火する恐れがあるので、養生するなど特にご注意ください。
- 屋根上で作業中に出る加工片や切粉は、錆の原因となりますので、確実に取り除いてください。
- 異種金属との接触は、もらい錆の原因となりますので、避けてください。
- 現場加工時に、鉄板の切断面に生じたバリは、怪我をする可能性があるので取り除いてください。
- 施工したあとの屋根面の塗装に傷が付かないように注意してください。もし傷を付けてしまった場合は、必ず補修塗料で補修をしてください。
- シーリング材、補修スプレー、補修塗料などは、製品安全データシートに従って、正しくご使用ください。
- 落ち葉やごみなどは作業者の足を滑らせたり、目を傷つけたりして事故の原因となることがありますのでご注意ください。毎日の作業前・終了後は、現場の掃除をしてください。

免責事項

金属屋根材および外装材は、建築材料・製品として、十分満足できる品質・性能を備えていますが、正しい施工と適切な維持管理がなされることによって、初めて耐久性や耐候性、その他の機能が発揮されるものです。

下記の項目に反した使用により不具合が発生した場合、弊社では責任を負いかねます。ご了承ください。

- 貴社の施工管理が十分なされなかったことに起因する場合。
- 施工店による施工や、取り扱いが原因で不具合が生じた場合。
- 入居者（管理人を含む）又は第三者による維持管理不行き届き並びに故意・過失に因る場合。
- 建物の構造上に起因する変形、変位または結露、下地材の腐朽等による不具合が発生した場合。
- 施工に起因する事故、および釘部の錆、切粉・加工屑・落ち葉・動物の排泄物・粉塵等が原因で汚れ等が発生した場合。
- 瑕疵を発見後、速やかに通知が出されなかった場合。
- シーリング部に不具合が発生した場合。
- 経年劣化による軽度の色ムラ及び埃の堆積による変色や白化現象、苔、藻、カビ等の発生による汚水や変色。
- 建築基準法および関係法規に違反した使用により不具合が生じた場合。
- 天変地異・周辺環境・大気汚染等公害・塩害に起因する特殊環境下で不具合が生じた場合。
- 契約当時、実用化された技術では予測することが不可能な現象に起因する場合。
- 屋根・外装材以外の用途で使用し、不具合が生じた場合。
- 水が溜まる状態の部分の塗膜損傷および電蝕作用が原因で不具合が生じた場合。
- 不適当な他材料（銅、鉛、銅イオンを防腐処理した木材等）と組み合わせで使用したことに起因する場合。
- 屋根工事後における増改築・補修並びに太陽光発電システムやアンテナ等の設置或いは付属品等の取付けに因る場合。
- 特殊環境地域（温泉場や絶えず蒸気等により製品が濡れている様な環境の地域、焼却炉付近、特殊ガス・熱・酸・アルカリ・塩類・その他腐食物質を発生する施設や工場並びに地域、塩害地区、海・河川等の周辺でしびきがかかるような地域、煙塵及び金属粉・石粉が堆積する地域）における損傷。
- その他弊社の責に因らない損傷に起因する場合。

その他ご不明な点がありましたら弊社にご相談ください。

目 次

	頁
施工の手引きご使用にあたって	1
安全上のご注意	2
目 次	3
[1]製品仕様	
(1) 各はげ折板製品仕様	4
(2) 耐火構造 屋根耐火30分 認定一覧(二重葺き)	5
(3) 標準部材	7
[2]標準施工計画	
(1) 段取りと施工の手順	15
[3]標準施工方法	
(1) 下葺材の施工	16
(2) 断熱金具の取付け	16
(3) 断熱金具の取付け位置(固定タイプ・スライドタイプの取付け・・・)	17
(4) グラスウールの敷き込み	18
(5) 上葺材の取付け	19
[4]施工後の注意	
(1) 屋根面の点検	21
(2) 屋根面の清掃・補修	21
■注意事項	22

(注) この施工の手引きは標準施工例です。
屋根材、役物等の納めについては、各現場の状況に応じて施工してください。

[1]製品仕様

(1) 各はぜ折板製品仕様

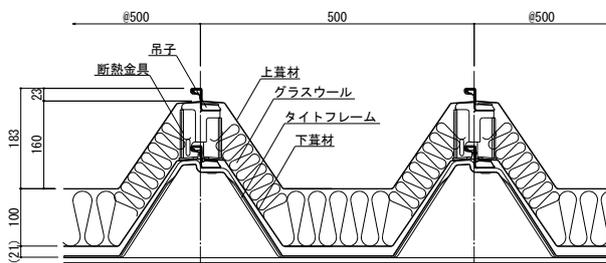
No	品名	板厚 (mm)	単位重量		働き幅 (mm)	勾配	自然曲げ半径	ペンタム 加工
			kg/m	kg/m ²				
①	MS角馳折板Ⅱ型	0.6	3.74	7.48	500	3/100以上	250mR以上	○
		0.8	4.94	9.88				
		1.0	6.13	12.26				
②	MS丸馳折板Ⅱ型	0.6	3.74	7.48	500	3/100以上	250mR以上	×
		0.8	4.94	9.88				
		1.0	6.13	12.26				
③	MS角馳折板550	0.6	3.74	6.80	550	3/100以上	250mR以上	×
		0.8	4.94	8.98				
		1.0	6.13	11.15				
④	MS角馳折板300	0.6	2.25	7.48	300	3/100以上	180mR以上	×
		0.8	2.96	9.87				
⑤	MS角馳折板600	0.6	4.49	7.48	600	3/100以上	180mR以上	×
		0.8	5.92	9.87				
⑥	MS丸馳折板650 (MS丸馳折板Ⅲ型)	0.6	4.49	6.91	650	3/100以上	180mR以上	×
		0.8	5.92	9.11				

※ No①～③の板厚0.6mmは二重葺き工法の下葺材のみの使用でお願いします。

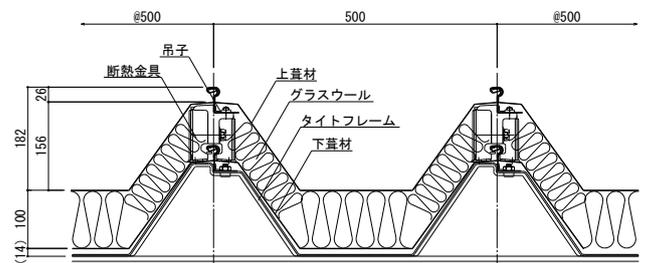
※ 自然曲げをすることにより折板底部および斜め部に波状の歪みが発生しますのでご注意ください。

※ ペンダム加工は一部の工場加工対応可

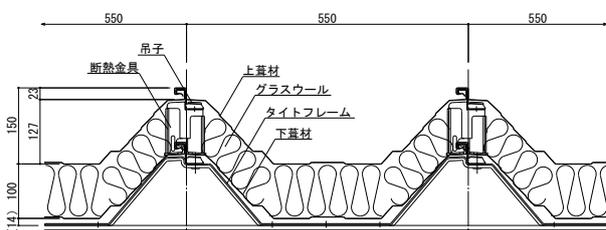
◆MS角馳折板Ⅱ型◆



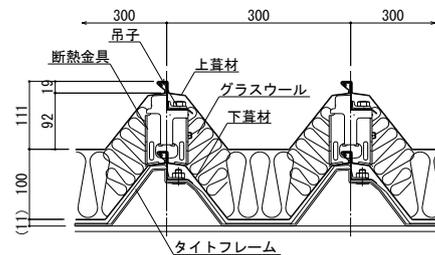
◆MS丸馳折板Ⅱ型◆



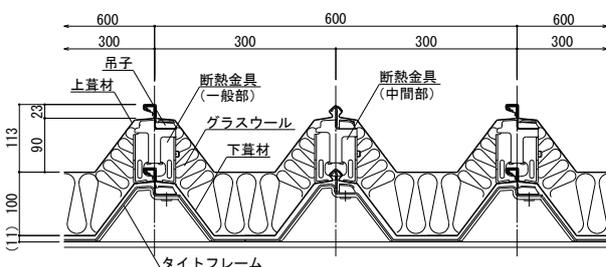
◆MS角馳折板550◆



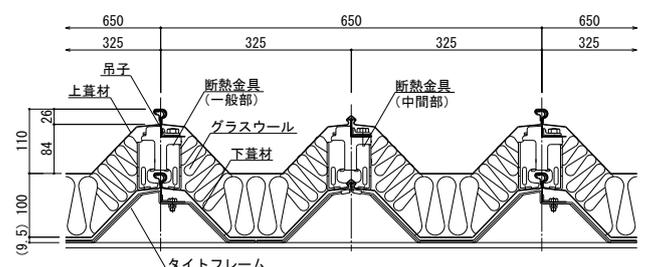
◆MS角馳折板300◆



◆MS角馳折板600◆



◆MS丸馳折板650 (MS丸馳折板Ⅲ型)◆



(2) 耐火構造 屋根耐火30分 認定一覧 (二重葺き)

※各認定番号下の記載内容は、主な仕様を記載

<対象折板> M S 角馳折板Ⅱ型、M S 丸馳折板Ⅱ型

- ◆ 認定番号：FP030RF-1973(1)～(4)
認定名称：人工鉱物繊維断熱材充てん/めっき鋼板製折板屋根
認定管理事業者：株式会社サカタ製作所
許容梁間：5,000mm以下
板厚：上葺材 0.6mm以上、下葺材 0.6mm以上
材質：JIS G 3302、JIS G 3312、JIS G 3314、JIS G 3321、JIS G 3322、JIS G 3323 等
(※詳細条件は認定書(別添)参照)
タイトフレーム：厚 2.0mm以上
吊子：厚 1.0mm 以上、幅 120mm 以上
断熱金具：ダン吉HQ、スライドダン吉HQ、スライドダン吉HQ (音鳴り低減仕様)
※¹ダン吉HQ S、※²スライドダン吉HQ S、※³スライドダン吉HQ S (音鳴り低減仕様)
※1～※3はMS角馳折板Ⅱ型のみ適用
断熱材：グラスウール断熱材 (JIS A 9521)、厚さ 100mm×1層 又は 50mm×2層、密度 10kg/m³
外皮 ポリエチレン系フィルム全層表裏合計 80μm 以下
裏打材：無し又は有り

- ◆ 認定番号：FP030RF-1799-3(1)～(4)
認定名称：グラスウール断熱材充てん/めっき鋼板製折板屋根
認定管理事業者：(一社)日本金属屋根協会 断熱亜鉛鉄板委員会
許容梁間：5,000mm以下
板厚：上葺材 0.8mm～1.2mm、下葺材 0.6mm～1.2mm
材質：JIS G 3302、JIS G 3314、JIS G 3317、JIS G 3321、JIS G 3323、JIS G 4305 等
(※詳細条件は認定書(別添)参照)
タイトフレーム：厚 2.3mm～4.5mm
吊子：厚 1.0mm～1.6mm×幅 130mm～150mm
断熱金具：ダン吉HQ、スライドダン吉HQ、※¹ダン吉HQ S、※²スライドダン吉HQ S
※1～※2はMS角馳折板Ⅱ型のみ適用
断熱材：グラスウール断熱材 (JIS A 9521)、厚さ 100mm×1層 又は 50mm×2層、密度 10kg/m³
外皮 ポリエチレン系フィルム 20μm 以下有又は無
裏打材：無し又は有り

- ◆ 認定番号：FP030RF-1879-3(1)～(4)
認定名称：グラスウール断熱材充てん/めっき鋼板製折板屋根
認定管理事業者：(一社)日本金属屋根協会 断熱亜鉛鉄板委員会
許容梁間：5,000mm以下
板厚：上葺材 0.8mm～1.2mm、下葺材 0.6mm～1.2mm
材質：JIS G 3302、JIS G 3314、JIS G 3317、JIS G 3321、JIS G 3323、JIS G 4305 等
(※詳細条件は認定書(別添)参照)
タイトフレーム：厚 2.3mm～4.5mm
吊子：厚 1.0mm～1.6mm×幅 130mm～150mm
断熱金具：ダン吉HQ、スライドダン吉HQ、※¹ダン吉HQ S、※²スライドダン吉HQ S
※1～※2はMS角馳折板Ⅱ型のみ適用
断熱材：グラスウール断熱材 (JIS A 9521)、厚さ 100mm×1層 又は 50mm×2層、密度 16kg/m³
外皮 ポリエチレン系フィルム 20μm 以下有又は無
裏打材：無し又は有り

<対象折板>MS角馳折板550

◆認定番号：FP030RF-1850-1(1)～(4)

認定名称：グラスウール断熱材充てん/めっき鋼板製折板屋根

認定管理事業者：月星商事株式会社

許容梁間：4,000mm以下

板厚：上葺材 0.8mm～1.2mm、下葺材 0.6mm～1.2mm

材質：JIS G 3314、JIS G 3321、JIS G 3322 等（※詳細条件は認定書（別添）参照）

タイトフレーム：厚 2.3mm～4.5mm

吊子：厚 1.0mm～1.5mm × 幅 130mm～200mm

断熱金具：ダン吉HQ、スライドダン吉HQ、スライドダン吉HQ（音鳴り低減仕様）

断熱材：グラスウール断熱材（JIS A 9521 又は JIS A 6301）、厚さ 100mm×1層 又は 50mm×2層、
密度 10～20 kg/m³、外皮 ポリエチレン系フィルム 20μm 以下有 又は 無

裏打材：無し 又は 有り

<対象折板>MS角馳折板300

◆認定番号：FP030RF-1927-1(1)～(4)

認定名称：グラスウール断熱材充てん/めっき鋼板製折板屋根

認定管理事業者：（一社）日本金属屋根協会 断熱亜鉛鉄板委員会

許容梁間：3,500mm以下

板厚：上葺材 0.6mm～1.2mm、下葺材 0.6mm～1.2mm

材質：JIS G 3302、JIS G 3314、JIS G 3317、JIS G 3321、JIS G 3323、JIS G 4305 等
（※詳細条件は認定書（別添）参照）

タイトフレーム：厚 2.3mm～4.5mm

吊子：厚 1.0mm～1.6mm × 幅 130mm～150mm

断熱金具：ダン吉HQⅢ型、スライドダン吉HQⅢ型

断熱材：グラスウール断熱材（JIS A 9521）、厚さ 100mm×1層 又は 50mm×2層、密度 10kg/m³
外皮 ポリエチレン系フィルム 20μm 以下有 又は 無

裏打材：無し 又は 有り

<対象折板>MS角馳折板600

◆認定番号：FP030RF-1928(1)～(4)

認定名称：グラスウール断熱材充てん/めっき鋼板製折板屋根

認定管理事業者：（一社）日本金属屋根協会 断熱亜鉛鉄板委員会

許容梁間：3,500mm以下

板厚：上葺材 0.6mm～1.2mm、下葺材 0.6mm～1.2mm

材質：JIS G 3302、JIS G 3314、JIS G 3317、JIS G 3321、JIS G 3323、JIS G 4305 等
（※詳細条件は認定書（別添）参照）

タイトフレーム：厚 2.3mm～4.5mm

吊子：厚 1.0mm～1.6mm × 幅 130mm～150mm

断熱金具：ダン吉HQⅢ型、スライドダン吉HQⅢ型

断熱材：グラスウール断熱材（JIS A 9521）、厚さ 100mm×1層 又は 50mm×2層、密度 10kg/m³
外皮 ポリエチレン系フィルム 20μm 以下有 又は 無

裏打材：無し 又は 有り

<対象折板>MS丸馳折板650（MS丸馳折板Ⅲ型）

※ 屋根耐火30分 認定取得無し

(3) 標準部材

◆MS角馳折板II型◆

断熱金具		断熱金具 (スライド仕様)	
(一般仕様)	(スライド部用)	(音鳴り低減仕様) (固定部用)	(音鳴り低減仕様) (スライド部用)
①	②	③	④
断熱金具 (高強度タイプ)		断熱金具 (高強度タイプ) (スライド仕様)	
(一般仕様)	(スライド部用)	(音鳴り低減仕様) (固定部用)	(音鳴り低減仕様) (スライド部用)
⑤	⑥	⑦	⑧
吊子 (固定)		吊子 (スライド仕様)	
(B吊子J150R1 (L=150))	(スーパーB吊子 (L=200))	(スライドB吊子R2 (L=200))	
⑨	⑩	⑪	
妻用断熱金具		妻用L型金具セット	
※下葺材の妻タイトフレームが 段付き妻タイトフレームを使用した場合		(表面)	(裏面)
		W面戸	

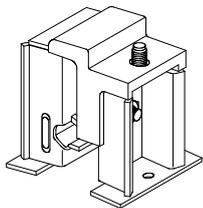
◆MS角馳折板II型◆

<断熱金具 + 吊子の組み合わせ>

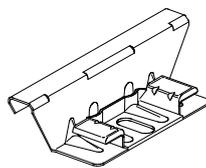
名 称		断熱金具	吊子	使用可能な屋根耐火30分認定番号
ダン吉HQ		①	⑨	FP030RF-1973-1(1)~(4) FP030RF-1799-3(1)~(4) FP030RF-1879-3(1)~(4)
ダン吉HQ S		⑤	⑨	
スライドダン吉HQ	固定部	①	⑩	
	スライド部	②	⑪	
スライドダン吉HQ S	固定部	⑤	⑩	FP030RF-1973-1(1)~(4)
	スライド部	⑥	⑪	
スライドダン吉HQ (音鳴り低減仕様)	固定部	③	⑩	
	スライド部	④	⑪	
スライドダン吉HQ S (音鳴り低減仕様)	固定部	⑦	⑩	
	スライド部	⑧	⑪	

(例) ダン吉HQの場合

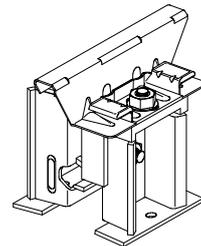
<断熱金具：①>



<吊子：⑩>



<ダン吉HQ>



◆MS丸馳折板II型◆

断熱金具		断熱金具（スライド仕様）	
（一般仕様） ①	（スライド部用） ②	（音鳴り低減仕様）（固定部用） ③	（音鳴り低減仕様）（スライド部用） ④
吊子（固定）		吊子（スライド仕様）	
（L=130） ⑤	（L=200） ⑥	（L=200） ⑦	W面戸

<断熱金具 + 吊子の組み合わせ>

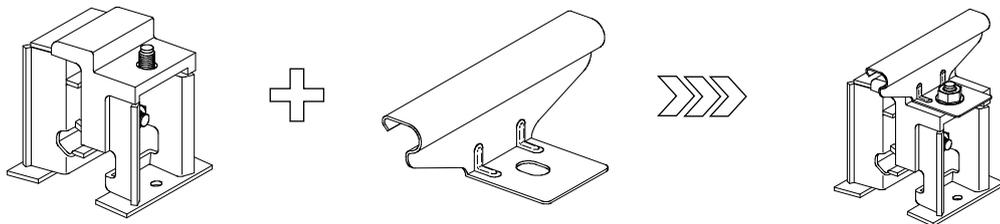
名 称		断熱金具	吊子	使用可能な屋根耐火30分認定番号
ダン吉HQ		①	⑤	FP030RF-1973-1(1)~(4) FP030RF-1799-3(1)~(4) FP030RF-1879-3(1)~(4)
スライドダン吉HQ	固定部	①	⑥	
	スライド部	②	⑦	
スライドダン吉HQ （音鳴り低減仕様）	固定部	③	⑥	FP030RF-1973-1(1)~(4)
	スライド部	④	⑦	

（例）ダン吉HQの場合

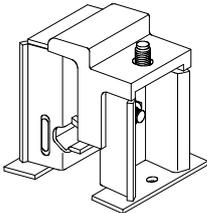
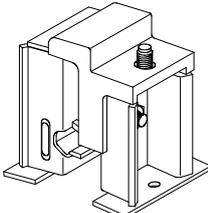
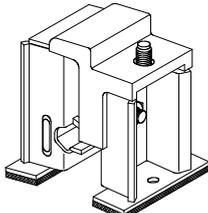
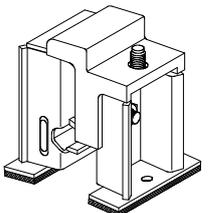
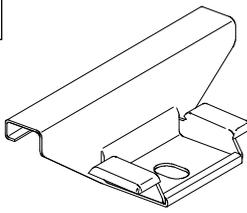
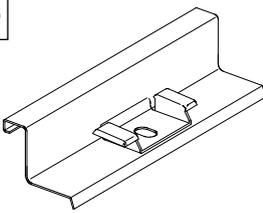
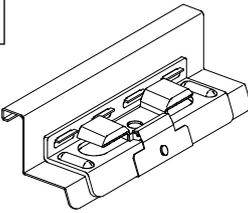
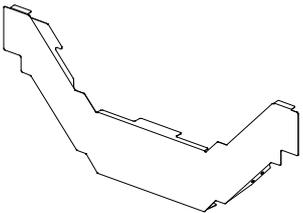
<断熱金具：①>

<吊子：⑤>

<ダン吉HQ>



◆MS角馳折板550◆

断熱金具		断熱金具（スライド仕様）	
（一般仕様） ① 	（スライド部用） ② 	（音鳴り低減仕様）（固定部用） ③ 	（音鳴り低減仕様）（スライド部用） ④ 
吊子（固定）		吊子（スライド仕様）	
（スーパーC吊子（L=130）） ⑤ 	（スーパーC吊子（L=200）） ⑥ 	（スライドC吊子R2（L=200）） ⑦ 	W面戸 

<断熱金具 + 吊子の組み合わせ>

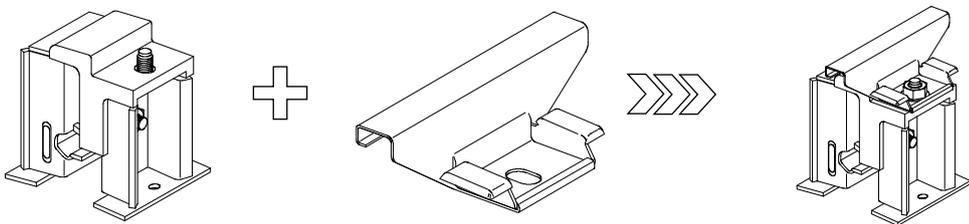
名称		断熱金具	吊子	使用可能な屋根耐火30分認定番号
ダン吉HQ		①	⑤	FP030RF-1850-1(1)~(4)
スライドダン吉HQ	固定部	①	⑥	
	スライド部	②	⑦	
スライドダン吉HQ （音鳴り低減仕様）	固定部	③	⑥	
	スライド部	④	⑦	

（例）ダン吉HQの場合

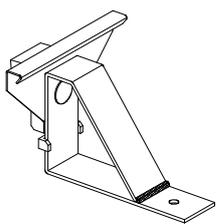
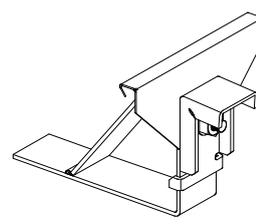
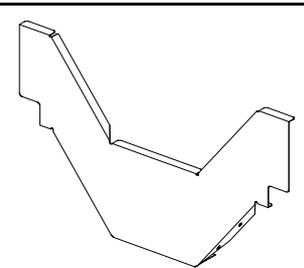
<断熱金具：①>

<吊子：⑤>

<ダン吉HQ>



◆MS角馳折板300◆

断熱金具		断熱金具（スライド仕様）	
（一般仕様） ①	（スライド部用） ②	（音鳴り低減仕様）（固定部用） ③	（音鳴り低減仕様）（スライド部用） ④
吊子（固定）		吊子（スライド仕様）	
（A吊子R1（L=150）） ⑤	（固定部用A吊子（L=200）） ⑥	（スライドA吊子（L=200）） ⑦	
妻用L型金具セット		W面戸	
（表面） 	（裏面） 		

<断熱金具 + 吊子の組み合わせ>

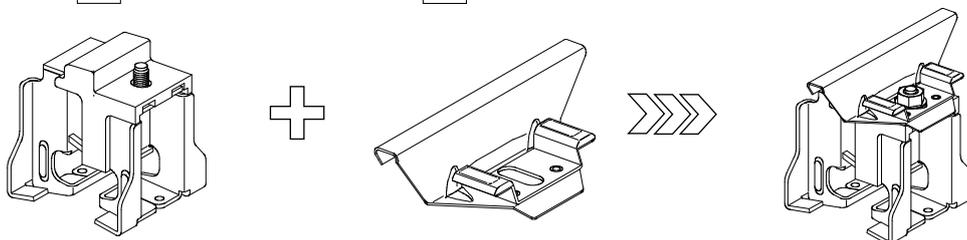
名称	断熱金具	吊子	使用可能な屋根耐火30分認定番号
ダン吉HQⅢ型	①	⑤	FP030RF-1927-1(1)~(4)
スライドダン吉HQⅢ型	固定部 ①	⑥	
	スライド部 ②	⑦	
スライドダン吉HQⅢ型 （音鳴り低減仕様）	固定部 ③	⑥	-
	スライド部 ④	⑦	

（例）ダン吉HQⅢ型の場合

<断熱金具：①>

<吊子：⑤>

<ダン吉HQⅢ型>



◆MS角馳折板600◆

断熱金具		断熱金具（スライド仕様）	
（一般仕様）	（スライド部用）	（音鳴り低減仕様）（固定部用）	（音鳴り低減仕様）（スライド部用）
①	②	③	④
吊子（固定）			
（スーパーB吊子（L=130））	（中間部吊子（L=90））	（スーパーB吊子（L=200））	（固定部用中間吊子（L=200））
⑤	⑥	⑦	⑧
吊子（スライド仕様）		妻用L型金具セット	
（スライドB吊子R2（L=200））	（スライド中間吊子（L=200））	（表面）	（裏面）
⑨	⑩		
W面戸			

◆MS角馳折板600◆

<断熱金具 + 吊子の組み合わせ>

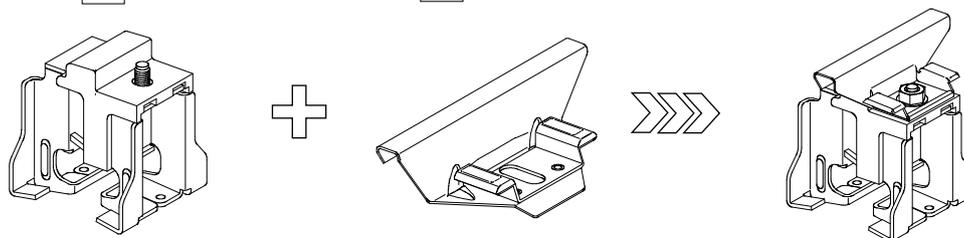
名称		断熱金具	吊子		使用可能な屋根耐火30分認定番号
ダン吉HQⅢ型		①	⑤ or ⑥		FP030RF-1928(1)~(4)
スライドダン吉HQⅢ型	固定部	①	通常吊子 ⑦	中間部吊子 ⑧	
	スライド部	②	通常吊子 ⑨	中間部吊子 ⑩	
スライドダン吉HQⅢ型 (音鳴り低減仕様)	固定部	③	通常吊子 ⑦	中間部吊子 ⑧	
	スライド部	④	通常吊子 ⑨	中間部吊子 ⑩	

(例) ダン吉HQⅢ型 (ハゼ部) の場合

<断熱金具: ①>

<吊子: ⑤>

<ダン吉HQⅢ型>

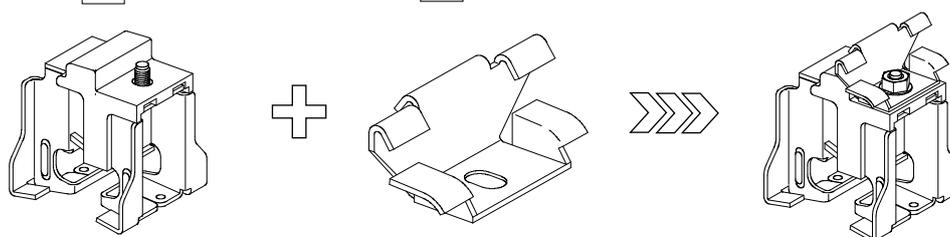


(例) ダン吉HQⅢ型 (中間ハゼ部) の場合

<断熱金具: ①>

<吊子: ⑥>

<ダン吉HQⅢ型>



◆MS丸馳折板650 (MS丸馳折板Ⅲ型) ◆

断熱金具	吊子 (固定)		W面戸
(通常馳部、中間馳部)	(通常吊子 (L=130))	(中間部吊子 (L=60))	
①	②	③	

<断熱金具 + 吊子の組み合わせ>

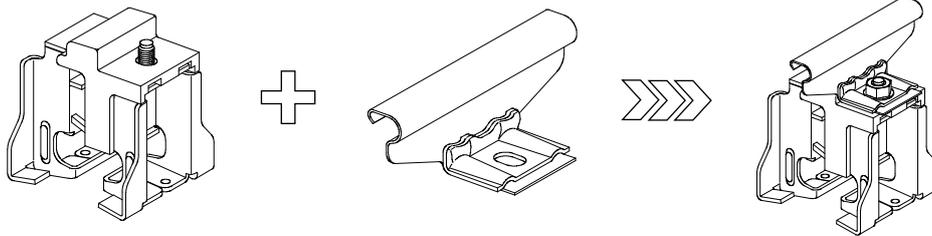
名 称	断熱金具	吊子	使用可能な屋根耐火30分認定番号
ダン吉HQⅢ型 (通常馳部、中間馳部)	①	② or ③	—

(例) ダン吉HQⅢ型 (通常馳部) の場合

<断熱金具: ① >

<吊子: ② >

<ダン吉HQⅢ型 >

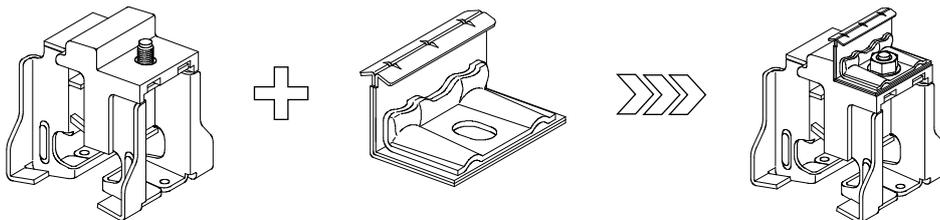


(例) ダン吉HQⅢ型 (中間馳部) の場合

<断熱金具: ① >

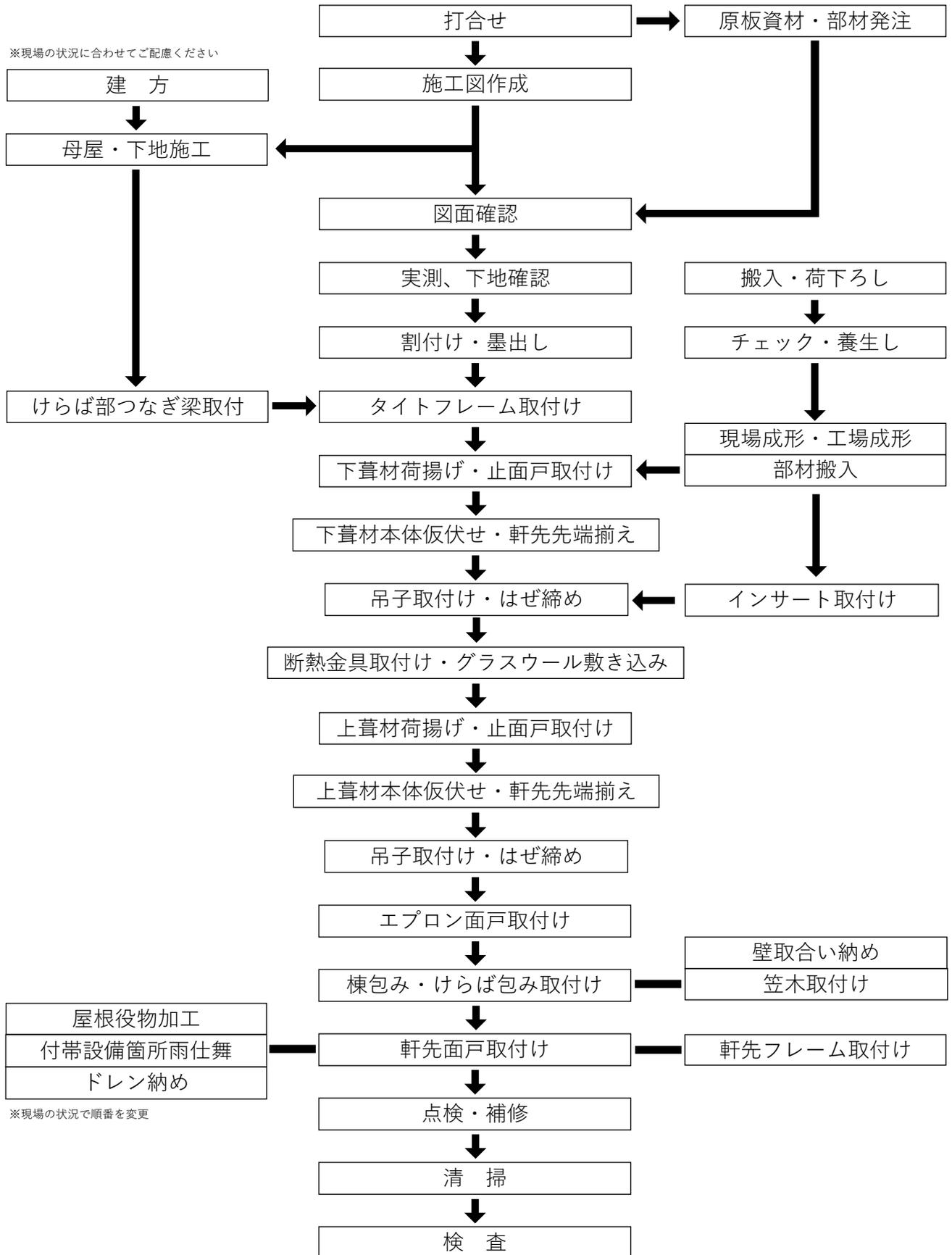
<吊子: ③ >

<ダン吉HQⅢ型 >



[2]標準施工計画

(1) 段取りと施工の手順

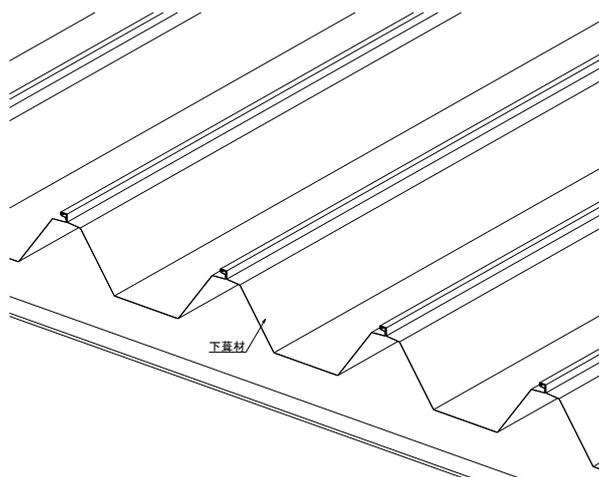


[3]標準施工方法（※イメージ図はMS角馳折板II型で作図）

(1) 下葺材の施工

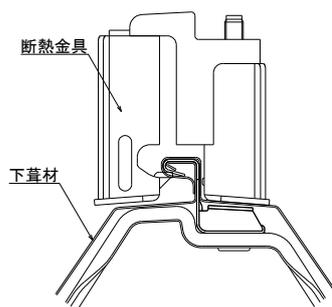
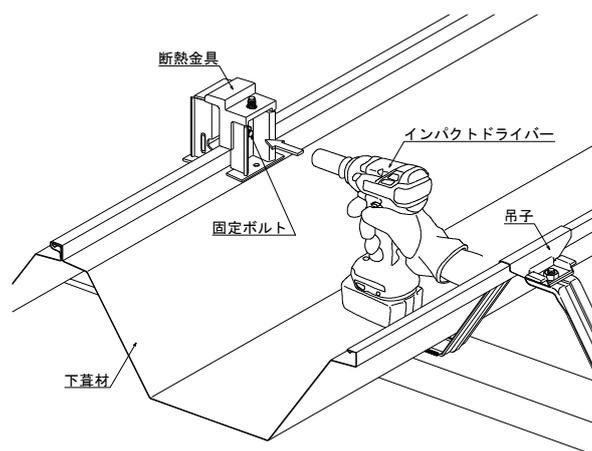
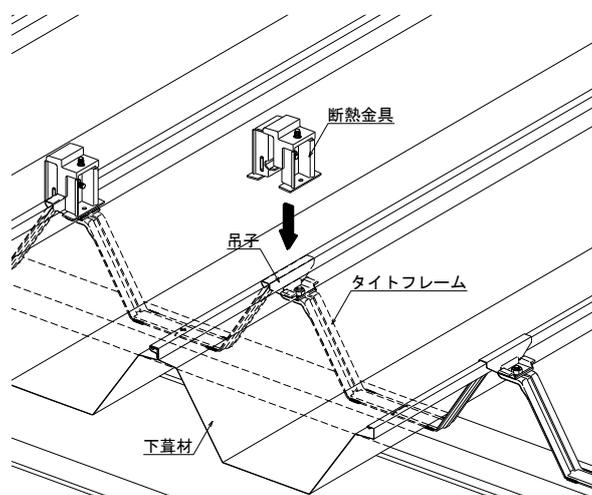
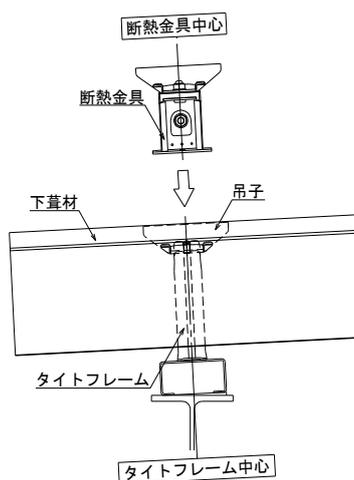
- ・ 下葺材を施工してください。

※施工方法については、
弊社「馳折板 施工の手引き（シングル葺き）」
をご参照ください。

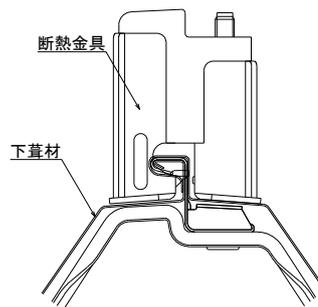
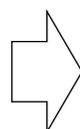


(2) 断熱金具の取付け

- ・ 下葺材の吊子の中心位置と断熱金具の中心位置を合わせて取付け、断熱金具横の固定ボルトをインパクトドライバー等で締め付けてください。



< 固定ボルト締め付け 前 >



< 固定ボルト締め付け 後 >

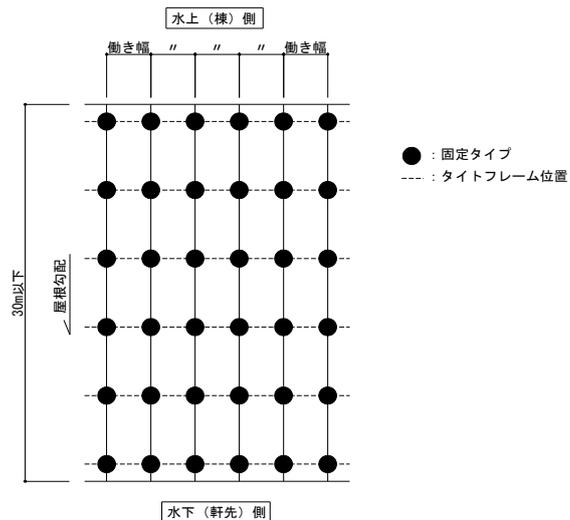
(3) 断熱金具の取付け位置 (固定タイプ・スライドタイプの取付け位置)

● 屋根流れ長さが30m未満の場合 (全て固定タイプ可)

- ・断熱金具は下葺材の吊子部分に取付けてください。
- ・全ての断熱金具は固定タイプ可能です。

※ 熱伸縮による接合部材 (下葺材の吊子) への疲労損傷を考慮し、屋根流れ長さ30m以上は、スライドタイプの使用を推奨いたします。

※ 屋根流れ長さ30m以下でもスライド金具の使用は可能です。

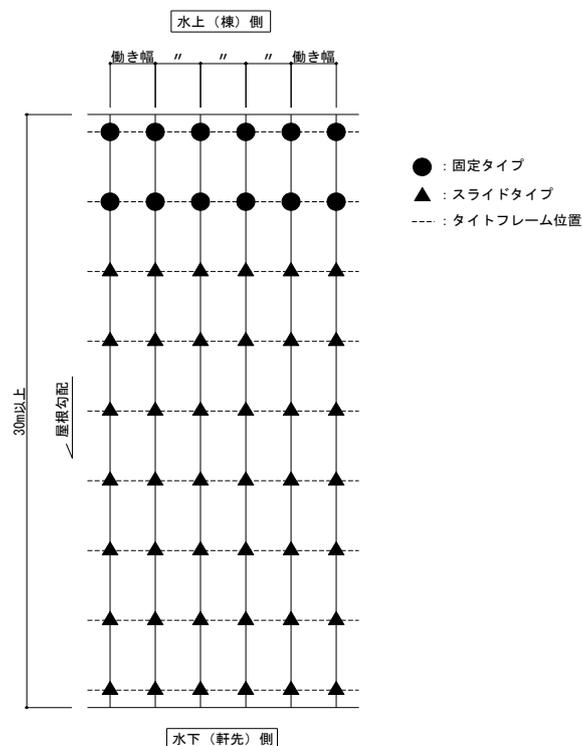


● 屋根流れ長さが30m以上の場合

- ・断熱金具は下葺材の吊子部分に取付けてください。
- ・水上側より2列に固定タイプを取付け、その他の部分はスライドタイプを取付けてください。

⚠ 注意

- ・上葺材は熱による伸縮を繰り返します。水上部に固定タイプを取付けない場合、上葺材が尺取り虫のように軒先へズレることが考えられます。



(4) グラスウールの敷き込み

- 厚さ50mm×2層の場合
 - ・ グラスウール（10kg/m³以上、t=50mm）を2層に下葺材の上に敷き込んでください。
 - ・ 上下グラスウールのジョイント部は重ならないように、ずらして敷き込んでください。
- 厚さ100mm×1層の場合
 - ・ グラスウールは折板の流れ長さ方向と直角に水下側より隙間が無いように敷き込んでください。

⚠ 注意

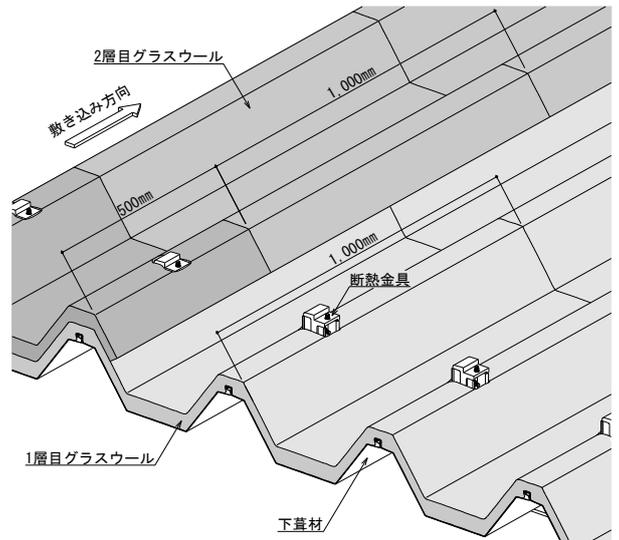
- ・ グラスウールの敷き込み作業中は、ビニールシート等を用意して、不意の降雨等で濡らさないように注意してください。

⚠ 注意

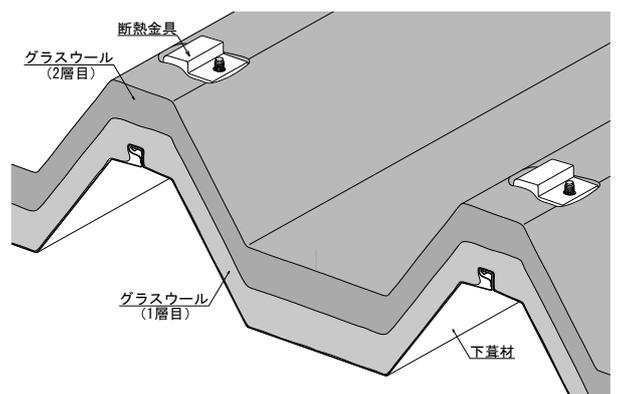
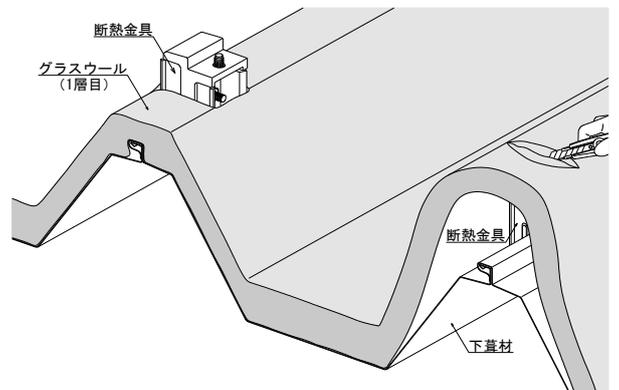
- 断熱金具部分についてはグラスウールにカッターナイフ等で切れ目を入れ、断熱金具を完全に露出させてください。

⚠ 注意

- 上葺材を施工するために、断熱金具部分についてはグラスウールにカッターナイフ等で切れ目を入れ、必ず断熱金具の上面（吊子を取付けるボルト含む）を完全に露出させてください。



※上図は50mm×2層で表現



(5) 上葺材の取付け

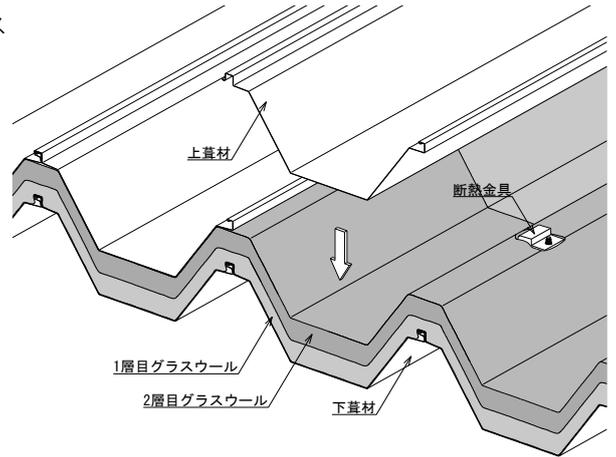
● 上葺材本体の仮葺き

- ・ 断熱金具の取付けミスおよび断熱金具の吊子がグラスウールから完全に露出しているか確認してください。
- ・ 軒先の出に不揃いがないかを確認し、さらにピアノ線等を張って出を揃えてください。



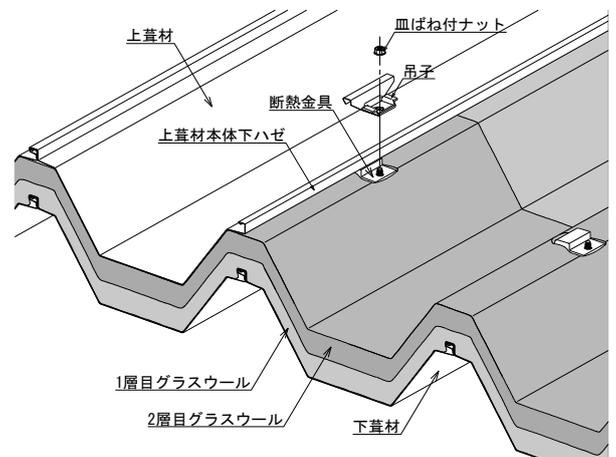
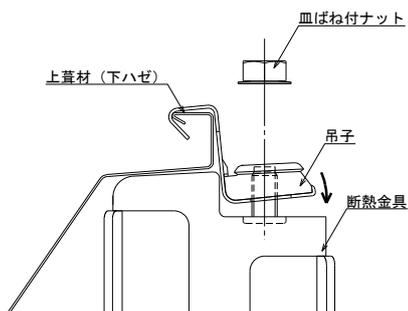
注意

- ・ 必ず軒先を合わせてから、折板本体を仮葺きしてください。



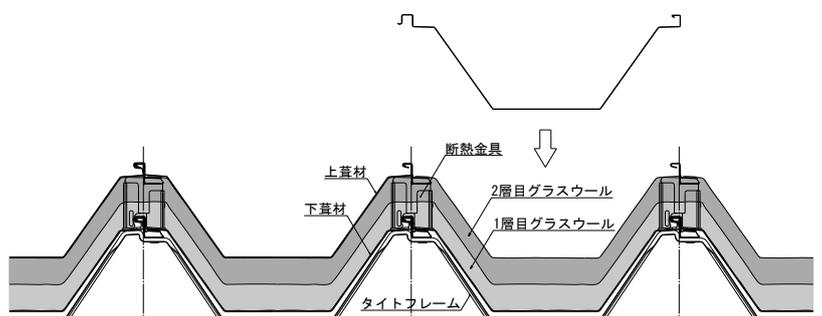
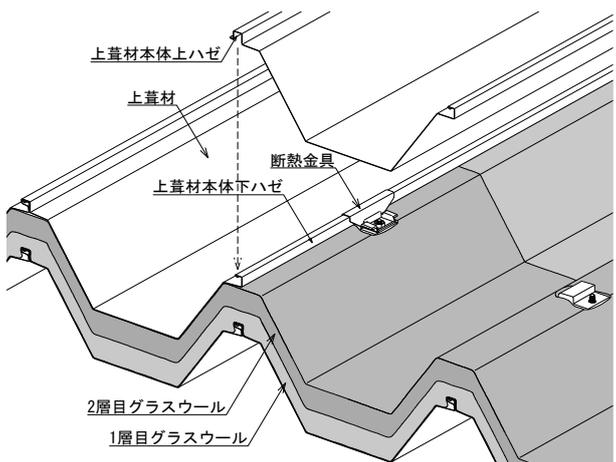
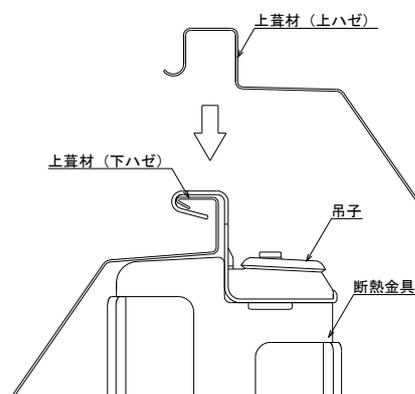
● 上葺材本体の下ハゼと吊子のセット

- ・ 吊子のハゼを上葺材本体下ハゼに引掛け、断熱金具にセットし、ボルト、ナット（皿ばね付）で締め付けてください。



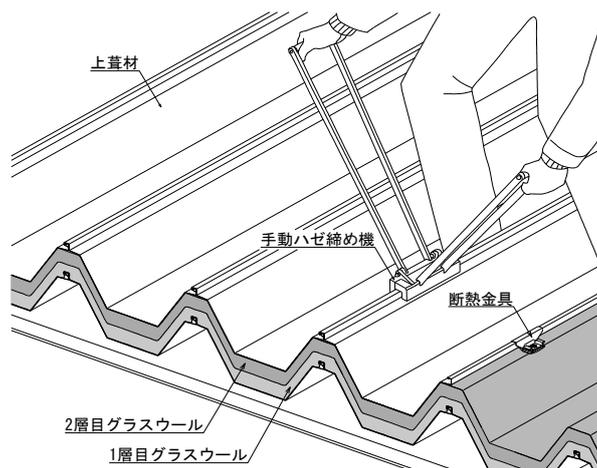
● 上葺材本体の上ハゼのセット

- ・ 上葺材本体の上ハゼを下ハゼの上から被せるようにセットしてください。
- ・ 上葺材本体の下ハゼと上ハゼの組み合わせが確実にはまっているかを確認してください。



● ハゼ締め

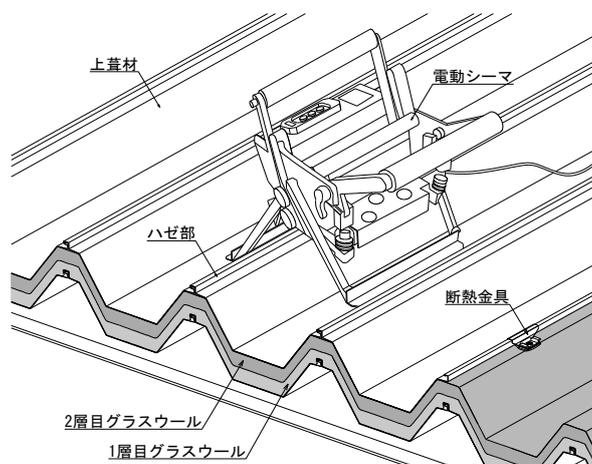
- ・ 手動ハゼ締め機（以降、手ガチャ）で吊子部分と母屋の中間部を1m程度の間隔で手締めし、仮止めしてください。
- ・ 軒先部や棟部は、電動シーマーが屋根から落下することを防ぐため、手ガチャで手締めしてください。



- ・ 手ガチャで手締めした箇所以外の部分を電動シーマーでハゼ締めし仕上げてください。

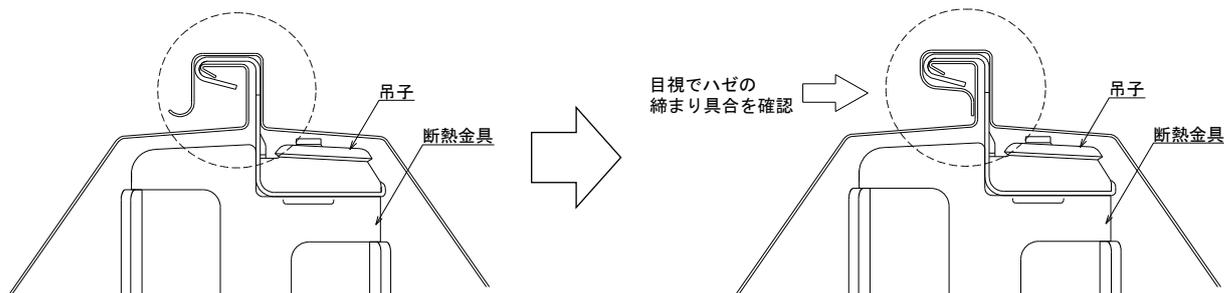
⚠ 注意

- ・ 電動シーマーの動きに注意して、作業者は軒先又は棟端部に背を向けず電動シーマーの後を追いかける位置に居るようにしてください。
- ・ 電動シーマーの落下および作業員の転落に繋がる恐れがありますので、軒先または棟まで電



● 検査

- ・ ハゼ部を横から見て、全体にハゼ締めがされているかどうか確認（目視）してください。



[4]施工後の注意

(1) 屋根面の点検

● 点検・検査箇所

- ① ハゼ部の組み合わせ不良による浮き上がり
- ② 各種役物の納まりのチェック
 - ・ 確実な取付けが行われているか？
 - ・ 重ね寸法は十分か？
 - ・ 重ね部のシーリングは良いか？
- ③ 要所のシーリング
- ④ 取り扱いキズ、切粉等もらい錆の原因となる物が散乱していないか？

※ 点検表などを作成し記録するとともに、手直しを必要とする箇所にはカラーテープ等でマーキングし、補修漏れを起こさぬようにお願いします。

● 屋根面を歩くとき

- ・ 漏水の原因となりますので、棟包み、けらば包み、役物ジョイント部等の上には乗らないでください。

(2) 屋根面の清掃・補修

- 切粉、もらい錆の原因となる物は必ず清掃し除去してください。
- 清掃用具は柔らかい物で鋼板表面塗膜にキズ等が生じない物を使用して下さい。
- 洗剤を使用する場合は、中性洗剤を使用し布で拭き取ってください。
(金属ブラシ、スチールウール、金属ヘラ等は使用しないでください)
- 折板屋根表面の塗膜キズは清掃後に布などで油・ゴミを完全に取り除き、表面材と同色の純正補修塗料で塗装補修をしてください。
- 残材は作業現場に残さないよう処理し検査に支障をきたさないよう、周辺環境の整備を行ってください。

SGLカラー/GLカラー-SERIOS Prime (セリオスプライム)

ご使用に際して

1.混合使用

●同じ色彩の塗装溶融2%マグネシウム添加55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板または、塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板でも製造メーカー、種類により特性値が異なり、年月を経ると外観に差異が生じることから同一建物での混合使用は絶対に避けて下さい。

2.扱い

●成形・運搬・施工時、表面に擦れ傷、カキ疵が付く場合がありますので、取扱いには十分注意して下さい。

3.塗装を剥がす場合

●ハンダ付け等で塗装を剥がす必要がある場合、剥離剤による方法がありますが、強い溶剤を含んでおり、剥離作業後の水洗が十分でない、後に塗る塗膜を極端に傷めますので、水洗は十分に行ってください。

4.加工時のクリアランス

●呼び厚さは原板厚さを言いますので、加工時のクリアランスはめっきの厚さ及び塗膜の厚さを考慮の上、適正なクリアランスを設定して下さい。

5.成形ロールの手入れ

●成形加工は、一般カラーと全く同様に行えますが、良好な仕上がりを得るためには成形機の錆び落としなどの手入れをお願い致します。

6.施工後の注意

●施工時に発生した切粉等は「もらい錆び」の原因となりますので、除去して下さい。また、周辺から飛来する金属粉も「もらい錆び」の原因となりますので、金属粉が多く飛来する環境下でご使用される場合は定期的に清掃されることをお勧めします。
●動物等の排泄物、砂、泥、有機物(土、木の葉)、農薬、融雪剤、凍結防止剤などの堆積は、腐食の進行が非常に早くなりますので、その都度清掃してください。

7.補修塗料について

●塗料を剥した部分、著しい瑕疵部分等、補修塗装する場合は補修塗料を使用して下さい(補修塗料は最寄りの販売代理店へ請求して下さい)。補修塗料はそのまま使用できるように調整してありますので、十分に攪拌し、溶剤で希釈せず直接刷毛等で塗布して下さい。

8.SGLカラー/GLカラー-SERIOS Prime (セリオスプライム) つや消しの場合

●SGLカラー/GLカラーセリオスプライムつや消しは、梨地肌の完全つや消し仕上げの製品外観(光沢が低く、表面粗度が大きい)にしているため、一般カラーと比較すると雪が滑りにくいと考えられます。このため、SGLカラー/GLカラーセリオスプライムつや消しを屋根にご使用いただく場合には、この点を十分ご配慮の上ご使用願います。

9.防腐・防蟻処理木材との長期接触による腐食の防止について

●防腐・防蟻剤(主に銅系の薬剤)を使用した木材や合板は、めっき鋼板や塗装鋼板の耐食性に影響をおよぼしますので、防腐・防蟻処理を含む木材との接触は避けて下さい。直接木材や合板に接触する部分(軒下、けらば、棟包み、水切り、降り棟、谷部、目地等)には絶縁用下葺(ルーフィング材、またはプチルテープ等)をご使用下さい。

10.メタリック色の使用について

●メタリック色は光線の正反射性が強い傾向にあります。そのため、僅かな材料の歪みや角度の違いによって見かけ上に明暗が生じ色ムラに見えます。

11.運搬および保管時の注意

●製品の保管は梱包状態で屋内保管とし、保管期間はできるだけ短くして下さい。よむを得ず野積をする場合には製品下部に適当な間隔で枕木等を置いて地面と直接接触しないようにして下さい。もしコイルや積み重ねた平板が水濡れした場合は、できるだけ速やかに成形するなどして乾燥させて下さい。成形品を積み重ねたまま水濡れさせることも禁物です。

保証内容について

●**セリオスプライムタイプ別の保証内容および機間**

- 1) SGLカラー/GLカラー-SERIOS Prime (セリオスプライム) 全タイプ
: 建築施工後最長25年間(目安: 海岸から500m以遠)、材料の腐食による穴あきが無いこと。
- 2) SGLカラー-SERIOS Prime (セリオスプライム) つや消し
GLカラー-SERIOS Prime (セリオスプライム) つや消し(クリーン・クール/2タイプ)
: 建築施工後最長15年間、塗膜の変退色が一定の基準以下であること。
- 3) SGLカラー-SERIOS Prime (セリオスプライム) つや消しメタリック、GLカラー-SERIOS Prime (セリオスプライム) つや消し(クリーン・クール・メタリッククール・メタリッククール・メタリッククリーン/4タイプ)
: 建築施工後最長15年間、塗膜の膨れ剥がれの発生が一定の基準以下であること。(切断面、加工部から発生した以上は対象外)
- 4) SGLカラー-SERIOS Prime (セリオスプライム) エナメル・エナメルメタリック、GLカラー-SERIOS Prime (セリオスプライム) エナメル(クリーン・クール・メタリッククール・メタリッククリーン/4タイプ)
: 建築施工後最長10年間、塗膜の膨れ剥がれの発生が一定の基準以下であること。(切断面、加工部から発生した以上は対象外)
(注) 塗膜保証 2), 3), 4) についてSGLカラー-SERIOS Prime (セリオスプライム) は海岸500m以遠、GLカラー-SERIOS Prime (セリオスプライム) は海岸2km以遠となります。
※1 海岸からの距離や周辺環境により保証内容が異なる場合があります。保証には別途当社で定める条件があり、保証内容のしよさについては当社営業窓口または特約店にお問合せ下さい。

●**保証条件**

- 1) 適切な環境で使用されていること。(使用環境で保証年数は変わります。)
 - 2) 設計・施工・加工が適切に実施されていること。
 - 3) お客様からの申請に基づき個別保証書を発行すること。
- ※1 保証には別途条件があります。保証の詳細については当社営業窓口または特約店にお問合せ下さい。
※2 個別保証書は大切に保管して下さい。苦情のお申し立ての際は個別保証書をご提示下さい。

●**免責事項の例**

- 1) 切断面、端面、ボルト穴、くぎ穴、溶接部、現場加工部から派生する欠陥等。
 - 2) 軒下等雨がかりしないため、雨水による洗浄効果が期待できない部分の欠陥等。
- ※保証をお申し込みされる場合、他の免責事項については当社営業窓口または特約店にご確認下さい。
◇最新の情報については、当社営業窓口または特約店へお問合せください。

保証対象外について

●SERIOS Prime (セリオスプライム) については、従来材と比較した機能の向上を製品長さとしてうたったものであり、機能(遮熱、防汚、耐痕)を保証するものではありません。

不適切な使用例

以下は保証の対象外となる場合(免責事項)の例です。詳細はメーカー営業窓口または特約店へお問合せ下さい。

- | | |
|--|--|
| <p>1.環境例</p> <ul style="list-style-type: none"> ●塩害、亜硫酸ガス、アルカリなどの影響がある場合。 ●鉄粉など付着した場合。 ●湖沼、河川などの周辺で常に水しぶきがかかる場合。 ●天変地変、災害など、その他不可抗力による損傷が発生した場合。 | <p>2.加工・施工例</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施工後に外力、加工層などの飛来による損傷があった場合。 ●加工時、施工時に損傷が発生した場合。 ●防腐剤、防蟻剤を含む木材との長期接触があった場合。 ●葺工法毎に許容される屋根勾配を無視した場合。 |
|--|--|

めっき鋼板・塗装鋼板のメンテナンスについて

めっき鋼板・塗装鋼板はサビに強く、とても優れた素材ですが、完ぺきな素材ではありません。適切なメンテナンスをすることで、めっき鋼板・塗装鋼板の性能を最大限活かし、長持ちさせることができます。ここではメンテナンスのポイントをご紹介します。

■ **水洗いの方法**

定期的に点検を行い、汚れが付着している場合は水洗いをして下さい。水洗いで落ちない汚れは、中性洗剤を1~2%に希釈して洗浄して下さい。鋼板の表面を傷付けないよう、やわらかい箇所は汚れが溜まりやすくなりますので、念入りに行うようにして下さい。

■ **汚れが溜まりやすい箇所**

軒下や庇の下などは雨水が当たりにくく、塩分や酸性の腐食原因物質が蓄積しやすくなります。そのため、定期的に水をかけて腐食原因物質を洗い流すことをお勧めします。

■ **塗り替えについて**

塗装鋼板は以下のような劣化プロセスを辿ります。適切な時期に塗り替えを行うことによって、さらに長持ちさせることができます。



- 塗装面がチョーキングの末期状態でふくれが散見される状態が塗り替えの適正時期です。
- 塗装鋼板の種類や環境によって時期は異なりますが、おおそ10~15年が目安です。
- 塗り替え用塗料は各塗料メーカーより市販されておりますので、施工事業者とご相談ください。

◎月星商事株式会社

本社 〒104-8533 東京都中央区八丁堀4丁目4番2号

営業 TEL:03 (3551) 2121 FAX:03 (3552) 4079

<http://www.tsukiboshi-shoji.co.jp>

大阪支店 TEL:06 (6462) 0202 FAX:06 (6462) 4466
福島支店 TEL:0247 (62) 6211 FAX:0247 (62) 6220
北関東支店 TEL:0270 (65) 3311 FAX:0270 (65) 8747
小山支店 TEL:0285 (49) 2311 FAX:0285 (49) 2317
埼玉支店 TEL:048 (728) 9111 FAX:048 (728) 8585
土浦支店 TEL:029 (831) 8022 FAX:029 (831) 8010
千葉支店 TEL:043 (259) 0511 FAX:043 (257) 2005
神奈川支店 TEL:046 (263) 2020 FAX:046 (263) 2035
静岡支店 TEL:0548 (22) 5241 FAX:0548 (22) 5631

名古屋支店 TEL:0561 (31) 0061 FAX:0561 (31) 0063
兵庫支店 TEL:0790 (22) 5271 FAX:0790 (22) 5262
札幌営業所 TEL:011 (221) 6748 FAX:011 (221) 6734
北上営業所 TEL:0197 (67) 1221 FAX:0197 (67) 1223
いわき営業所 TEL:0246 (58) 5861 FAX:0246 (58) 5241
山梨営業所 TEL:055 (284) 1261 FAX:055 (284) 1263
高松営業所 TEL:087 (806) 3311 FAX:087 (806) 2236
福岡営業所 TEL:092 (939) 5700 FAX:092 (939) 5703

■お問い合わせは————